

第 10 回委員会会議結果概要（案）

	会議結果要旨
第 10 回 委 員 会 議	<p>○第 9 回委員会会議結果関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 <p>○基本断面のバリエーション及び配置関連 [主な意見及び対応]</p> <p><佐野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かつての三番瀬に大きな石はなく、景観的・生態的にもよくないので基本断面の石積みに固執するのは反対である。 ・モニタリングの結果、評価委員会からの評価が無い段階で、来年度の実施内容を決定することには賛成できない。 ・市川市所有の土地を換地等により利用すれば、石積みをできるだけ使わないような海岸線のあり方は実現可能である。 ・確かに昨年は石積みで合意したが、その後についてはモニタリングの結果や、内陸部の事情の変化に応じて検討することと認識をしている。 ・10年も前に、国交省は江戸川放水路の工事を中止して、トビハゼ護岸を造ったのに、三番瀬ではできないというのは理解できない。 <p><及川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の埋め立てになる前の旧護岸は全部石積みであった。 ・漁業者としては、現状の護岸が破損した場合、泥の流出などにより漁業被害は莫大なものとなるので、とりあえず安全な護岸にしてもらいたい。 ・漁業者としては、捨石のみの施工で安全確保するのも悪くないが、施工延長が 500m と長いのは気にかかる。 <p><歌代委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理想論ばかりではなく、現実を踏まえ議論すべきである。 ・地権者が理解を示して土地を提供することは考えられない。 ・石積み護岸の前に砂を入れて、干潮になれば干潟になるという、生態観察ができるような砂浜を望んでいる。

	会議結果要旨
第10回会議	<p><川口委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浦安の埋め立て前は、全部石積み護岸であり、カニなど生き物の宝庫であった。石積みがなかったというのは誤りである。 ・江戸川放水路と、この三番瀬の直立護岸とは危険度が全く違う。トビハゼも大事かもしれないが人命の方がもっと大事である。 ・災害に対する危機感が不足している。大きな地震はいつ来るかわからないので、まず安全性を確保する必要がある。 ・県の整備イメージの海岸線は、良いと思う。 ・基本断面の完成形で進めることに賛成である。 ・危険な現況護岸への立入禁止を併用しながら完成形で進めるのが良いと思うが、モニタリングはきちっと続けていくことが大事である。 <p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論の拡散を防ぐため、今は、19年度に改良できる点はどこか、議論のタイムリミットはいつなのか、今の基本断面をベースにどういう工夫ができるかということに議論を限定すべきである。 <p>(事務局)：19年度の実施内容は決めていない。19年度発注スケジュールを考えると、基本断面決定のタイムリミットは今年の12月である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算と施工延長等がどうなるか、ある程度明確にしないと、バリエーションの議論ができないのではないか。 ・法先の石の積み方を工夫すれば、海に触れやすい場所にタイドプールができると思うので、構造上に影響を与えない範囲で工夫できればと思う。 ・再生会議で、再生の目標なりを早く議論する必要がある。

会 議 結 果 要 旨

第 10 回 会 議	<p><富田委員></p> <ul style="list-style-type: none">・民地をどうするのかというのは何も決めていないが、買収するのか。また、民も頑張るが、もっと護岸を海の方にと前からお願いしている。このことについて、我々地権者には何の説明もないが、その辺はどうするのか。 <p>(事務局)：現在、用地の手当てについては、決定していないので、今後、相談させていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・民地の扱いについては、事前に地権者へ説明されたい。・昔からの様子が良くわかっている漁業者の意見を、もっと吸い上げるべき。・まず一番老朽化の著しい部分、これを大至急やっていただきたい。・安全を最優先に、まずやるべきである。・陸地側の再生などと非現実的な議論を延々としても意味がない。 <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none">・現在の三番瀬は、不安定基質（砂などの流動性のあるもの）がほとんどである。従って、部分的に安定基質（石積みなど固定されるもの）が存在することは生物多様性にとって良いと思われる。・石積みについては、私自身が金沢八景で実験をして、アサリも増えた。現在、生産性を高めたい場合は、緩傾斜石積み護岸を使うのが常識になってきているということもご理解いただきたい。・ただし、生産性が高まった時の問題として、アオサ対策等の維持管理は考える必要がある。・捨石先行は、必ず二度手間になり予算が余計にかかるので、問題がある。
------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	会議結果要旨
第10回会議	<p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災の問題もあり応急的な手当は早急にやる必要があるが、評価委員会のモニタリング調査の問題提起を大事にしないと、自然再生の意味の半分は失われる。 ・そういった経過も踏まえて、ここで基本断面を決める必要はない。 ・江戸川放水路のトビハゼ護岸は、2年間工事をストップして、再生できた話しがあった。従って、必ずとも19年度に予算を使って、着工する必要はない。 <p><石川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・背後地の断面、バリエーションが決められないのであれば、当面の安全確保として捨石等を先行してやっていく方法もある。 <p><佐藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からの議論の積み上げにより、緩傾斜石積護岸の実施となり、今回は、海とのふれあいや景観などに配慮した緩傾斜石積護岸のバリエーションの議論をする段階であると理解している。以前に戻るような議論はいかなものか。 <p><矢内委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石積みとなった経緯は、昨年度からの議論で次のとおりと認識している。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全性を考えたときに今の護岸の高さ、強度ではもたないから改修が必要。 2) 護岸形式を比較検討して、直立護岸は費用的、施工的に困難であり、現実的に考えると落とされ、残った中で円卓会議から議論されている石積みとなった。 3) 昨年度から議論してきた石積み護岸について、本日の委員会前に、勉強会でバリエーションの意見交換をお願いしてきた。 従って、石積みは合意されており、いまさら見直す議論はできない。 ・タイドプールの深さは、安全性を考慮して検討する必要がある。 ・捨石先行での問題として、設計上では、護岸が波浪によりもつのは1 tの石だけであり、二層積みが標準である。 ・来年度施工内容について、勉強会で意見を出し合うこと。

会 議 結 果 要 旨

○粗朶工法の調査結果関連

[主な意見及び対応]

<後藤委員>

- ・わざわざ掘って粗朶を入れるということは、工費も嵩み現実的でないので、例えば松杭などの伝統工法の工夫を取り入れたい。
- ・自然再生の場についての粗朶の利用については、専門家の意見を聞きたい。

第

10

回

会

議

<及川委員>

- ・漁業者からの立場では、前面を掘り下げるというのは好ましくない。

<川口委員>

- ・若月氏を招いて、粗朶の勉強会をお願いしたい。

<石川委員>

- ・粗朶にお金を投入するよりも、1丁目の護岸の捨石をしていただきたい。

会議結果要旨

- 第10回会議
- その他関連**
- ・次第3「順応的管理計画」については、時間の都合により次回委員会で議論することとなった。
 - ・平成19年度の施工内容等に関する勉強会を、平成18年11月22日に開催することとなった。
 - ・次回第11回委員会を、12月15日に開催することとなった。
- 傍聴者からの意見**
- <傍聴者1>
- ・20mの完成形でモニタリングと順応的管理をおこない、このまま進めて良いのかをきちんと評価し、これはおかしいと思ったら工事を中止すべきである。
- <傍聴者2>
- ・一、二年前から議論が進歩しない人が何人かいるが、我々は今この地区で操業をしているので、安全を第一に考えていただきたい。その後に、皆さんが考えていることをやればよい。